

私の爪楊枝工作

近江八幡支部 米原校 32期 生活科学 佐藤 成宣

子供頃から工作等が好きで「近江八幡おやじ連作品展示会」「レイカ大作品展」で多くの方々の作品を見て触発され、自分でも何かを作りたいと思っていました。よく「何故？爪楊枝で・・・」という質問を受けます。正直自分でも爪楊枝を使った理由は明確ではありませんが、「一回数秒の使用で捨てられる爪楊枝を何かに使えないだろうか」という単純な発想が最初でした。

何よりも安くて身近に手に入る、材料は一種類のみで調達に苦労しないなどの気楽さが何よりです。そして、暇なときに時間つぶしのつもりでチョコチョコできる、木工や陶芸のように大きな工作室や工房が必要無いなど直ぐに誰でも始められます。しかし、大きい作品（現在は全て1/50の縮尺）になると平面に並べるだけで数百本が必要で、ただただ根気と集中力が必要で、時間つぶしとボケ防止には効果満点です。次に「苦労するところ？」を列記してみました。

- ①まず図面の入手です。「彦根城」は彦根の図書館で「法隆寺：金堂」は国立国会図書館に行けば何とかないと考え、向こうの職員さんに支援頂きながら入手できました。
- ②当初から作品は塗装しない決めていましたので、爪楊枝だけで質感の表現に事に気を使います。爪楊枝の貼る方向を縦・横・斜めに変えてみたり、爪楊枝に細かい切り込みを入れたして、作品ごとに自分なりのこだわりを持ちながら進めています。
- ③3作目で曲線を含む「彦根城」に初めて挑戦しました。細い真直ぐな爪楊枝を曲げるのはなかなか難しい。等間隔で軸径の半分ほど切り込みを入れ、少し湿らせて曲げながら接着していきました。また、曲線が組み合わされている屋根の設計が難しく、厚紙で試作したり、現物合わせで何とか対処しました。
- ④図面を入手して製作するものの、図面だけではどうしても解明できない部分が発生しますが、この時は現物を確認しに行きます。しかし、建物は下から見上げる状態が通常ですので、見たい所が見えず、最終的に想像で作る部分が発生しています。
- ⑤接着面積の大きい平面の製作は強度もあり扱いやすいのですが、樹木のように爪楊枝の丸軸面しか接着する所が無く、完全に乾燥するまで形を保持するのが大変で、接着後の強度も不安定です。

今号の表紙は佐藤さんの彦根城天守です

びわ湖放送の「きらりん滋賀」から佐藤さんが取材を受け、12月2日に放送されました。



毎年国宝の城を手掛けることに決め、彦根城のあと、現在は犬山城を制作中です。



自宅（一作目）使用本数≒ 3, 500本



ログハウス（二作目）使用本数≒ 6, 000本



彦根城（三作目）使用本数= 12, 500本



白雲館（4作目）使用本数= 8, 800本



法隆寺金堂（5作目）使用本数= 15, 500本